



公益財団法人 松濤学舎

令和8年度 舎監通信

令和8年8月1日発行

松濤学舎 HP



For your SHOTO Vol.9

文責 舎監 下村昌弘

6・23 からの8月をどう生きるかー「荒れ野の40年」演説を胸にー

罪の有無、老幼いずれを問わず、われわれ全員が過去を引き受けねばなりません。全員が過去からの帰結に関わり合っており、過去に対する責任を負わされているのであります。
<https://ja.wikipedia.org/wiki/>

心に刻みつづけることがなぜか重要であるかを理解するため、老幼たがいに助け合わねばなりません。また助け合えるのであります。

問題は過去を克服することではありません。さようなことができるわけはありません。後になって過去を変えたり、起こらなかったことにするわけにはまいりません。しかし過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となります。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした危険に陥りやすいのです。



「荒れ野の40年」ヴァイツゼッカー連邦大統領演説 1985年5月8日永井清彦訳岩波ブックレット 1986年

ヴァイツゼッカーは西ベルリン市長を経て西ドイツの大統領を務めた人です。上記の演説ではドイツが過去についてどのような責任を負い、それにどう立ち向かうかを語っています。

この演説を持ち出したのは、夏のこの時期は、日本人として忘れてはならない日付けが続くからです。6.23(沖縄慰霊の日)、8.6(広島原爆忌)、8.9(長崎原爆忌)そして8.15(終戦の日)。

私は学生時代を広島で過ごしました。夏のこの時期は妙に神妙な空気を感じました。とはいえ日常的に、原爆ドームを始め、原爆で曲がった鉄の窓(大学の学生寮「薫風寮」)などの戦争遺産を間近に見ていましたから、暮らし始めた当初、夜、暗い道を通る時には死者のうめきみみたいなものを想像することがありました。亡くなった人たちの上に今自分がいるという感覚です。

ところで先月、思い立って連休を利用し、忠海(広島県竹原市)にある大学の合宿所(弓道場)を訪れました。ここはウサギの島と言われる大久野島の対岸に位置しています。(写真右下の鉄塔のふもとに合宿所がある。大久野島は中央左の大小並んだ島)



大久野島には戦時中、毒ガス製造工場があり、軍事機密保持のため一時期公式地図から削除された経緯があります。その工場でウサギが実験に使われていました。敗戦時、工場のウサギは全て殺処分され、その子孫が残っているわけではありませんが、現在、大久野島はウサギの島と呼ばれるほどたくさんのウサギが放し飼いにされ観光地になっています。(右の絵本『うさぎの島』たてのひろし・近藤えり参照)



穏やかな瀬戸内の風景を眺めながら、戦争ってなんだ、平和ってなんだ、生きるってなんだ…と明確な解答のない問いが頭をめぐりました。

さて、冒頭のヴァイツゼッカーの演説はまさにリアルタイムでの衝撃でした。被爆地ヒロシマにいた時に出会えたのは幸運でした。それが私の戦争に対する考え方の底辺に住み着いたからか、私は自分にも戦争責任はあると思っています。戦争を進めた人、戦争で亡くなった人、そうした全ての人たちの延長線上に今の私たちは生きているからです。

今なお戦争・武力衝突が続くウクライナ、ガザ地区、スーダン、ミャンマー、シリア、イエメン…。

「戦」は「たたかう・いくさ」という意味の他に「おののく・からだがつるえる」「そよぐ・草木が風に吹かれて揺れ動く」という意味があります。「戦」の字を契機に、人間の狂気に気づき、やがては草木がそよぐような穏やかな心境に達するようになりたいものです。

2つのいい話 ―東野圭吾さんのインタビューに思う―

直木賞作家の東野圭吾（ひがしのけいご）さんが7月23日未明、大腸がんのため亡くなりました。68歳でした。まだまだ若いですね。

東野さんは大阪府立大学工学部の出身でデンソーに技術者として就職し、勤務の傍ら推理小説を書いた人だ。理系出身らしく、ち密な理論に基づいたストーリーに定評がありました。福山雅治が演じた「ガリレオ」シリーズの原作者でもあります。見た人も多いのではないのでしょうか。



<https://media.thisisgallery.com/20216768>

東野さんが2023年に菊池寛賞を受けた時のインタビューがニュースで流れていました。いい話だったので紹介します。

「大したことは言えないので」と前置きをして2人の先輩作家にまつわる話をされました。

1人は北方謙三氏。佐賀県出身の作家です。

「北方さんの言葉が心に残っている。北方さんは言った。『自分はダイヤの原石だと思っていた。しかしそうではないことにやがて気づいた。ただの石ころだった。がっかりした。でも考え方を変えた。ただの石ころでも磨けば少しは光るんじゃないかと。磨き続けて今があります』。とても感動した。これを思いついたのが自分でないことが悔しいと思った。それ以後、この言葉を糧に自分も頑張れた」。

もう1人は伊集院静氏。

「一緒に直木賞の選考の仕事をした後に言われた。『選考は楽しかった。なぜならお前は話しているうちに意見を変えるからだ。他の奴は○と言ったら○。×と言ったら×と意見を変えない。それがお前は意見をコロコロ変える。それがいい。話し甲斐がある。』

意見を変えるのは自分の得意技。政治家を筆頭に、いったん言い出したら考えを変えない。変えたら恥だ、引っ込みがつかないと思っていなかった。変わっていい。そうしないと話し合いは進まない。人間は変わった方がドラマティックだ。肩の力を抜いてどんどん変化しましょう」。

東野さんは泥臭い生き方をしてきた誠実な人なのだと思います。（尊敬する国語の先生に似てるんだよね、顔も雰囲気も。その方は佐賀西高勤務を最後に50歳を前に亡くなられたけど。“佳人”は薄命なのかも。私も薄命？（笑））

『80年目のアンコール』（8/23 高輪区民センター・無料） <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003120287/index.html>

港区と佐賀県は、平成31年4月の高輪築堤跡の発見を契機に、相互の地域の活性化に取り組んでおられます。令和6年3月には両者の縁を深めていくことを目的に「お台場・高輪築堤がつなぐ佐賀県と港区との連携宣言」を行い、連携事業に取り組まれています。

今年度の事業の一つとして、昨年度に引き続き、佐賀県立佐賀東高等学校・演劇部による演劇公演が上演されます。今回は、区立六本木中学校・ダンス部とコラボレーション！高校生と中学生、演劇部とダンス部、世代もジャンルも異なる2校で作り上げる演劇に乞うご期待！（要予約）



月	日	曜	行事等
8	3	月	佐賀県議来舎・高校生見学者あり
8	12	水	高校生見学者あり
8	11	火	寮食なし（8/20まで）
8	15	土	肥前佐賀陸・富岡八幡宮例祭神輿担ぎ1日目
8	16	日	肥前佐賀陸・富岡八幡宮例祭神輿担ぎ2日目
8	17	月	消防点検（午前中・各居室への入室あり）



寮からの次の連絡にアンテナを！

- ① 登録メアド
- ② 携帯ショートメール
- ③ 寮長からのLINE



【武蔵野の風】ある舎生が誤って事務室のプリンターに接続した。どうやら経済学の試験対策らしい。ざらっと見せてもらったがさっぱりわからない。▼今どきの試験はこんなに難しいのか。そういえば初めての大学の試験は受験勉強とは勝手が違い、不安で仕方なかった。先輩に「お前どこ高校出身だ？そこなら大丈夫だ」と言われて安心とも戸惑いともつかぬ思いをした記憶がある。▼自分の経験した試験は「〇〇について述べよ」みたいな問いが2つ3つ板書されて勉強してきたことをどばーっと書き散らかす感じだった。ヤマが外れたり分量が足りなかったりした時は「それはさておき××について述べると」と裏面にいくまで書きまくった。あとはレポートが多かった。大学院に至っては全部レポートだったような気がする。▼先日、大学の先輩に会ってそんな話になった時「おいは学生時代全く勉強せんやった。今の大学生は大変かねえ」とおっしゃった。確かにそうかもしれない。時代はドラマみたいに変わってしまったのだ。▼8月。もう試験も終わったところだろう。あとは一部のレポートと好きなことに費やす時間だ。▼それにしても俺だけ「可」だった中国文学特講は今でも納得がいけない。転部したあとと古巣の講義を受けに来たことへの教授からの腹いせだと思ってる。何しろ昔の話だ。（元口）

